

平成 23 年度 議会報告会記録

日 時 平成 23 年 11 月 11 日 19:00～21:30
場 所 鹿島市生涯学習センター エイブルホール
参加者 160 人

会の内容 第 1 部 常任委員会の仕事、2 つの特別委員会が取り組んでいること、議会改革プロジェクトチームで調査・研究・検討をしていること、議会運営委員会の役割の説明
意見交換 会場からの意見や質問を受けてそれについて、議長を中心に答弁
(発言内容については別紙を参照)

第 2 部 講 演
演題 「元気な地域とは」
講師 県統括本部 最高情報統括監
森本 登志男 さん

報告会のアンケートを実施

回答枚数 49 枚

今後の会に求めるもの ・年に何回か開催して、各地での開催、議員それぞれの意見も聞きたい
・スクリーンなどを利用して解りやすく説明を
・講演会は別にして(時間的なものだと思う)
(詳しい集計は別紙を参照)

これらの意見を参考に、次回からの開催内容を計画していきます

役割分担 進行 全体進行 中村一堯 意見交換の時進行 中西議長、
説明者 常任委員会の委員長
特別委員会の委員長
議会運営等改革プロジェクトチームのチーフ
議会運営委員会の委員長
記録 受付、会場のマイク渡し、記録写真は事務局で対応
準備・後片付け 全員で行いました (駐車場の案内なし)

平成23年11月30日 全員協議会での意見集

当日の反省

- ・ 進行スケジュール通りにいかなかった 発言の時間は守って欲しい
- ・ 当日の質問には、議長が答えると聞いていたが、いきなり答弁を振られ、あわてた。
- ・ 質問内容によって、議長が答弁者を指名していくという段取りで、説明していたつもりだったが説明不足でした。
- ・ 次回から、質問に答弁する議員が挙手するようにした方がよい

今回は、説明だけだったので、市民との意見交換を地域ごとにやってほしい

- ・ 地区別に行く場合は、まずは、8名ぐらいのチームがよいと思う
- ・ 慣れてくれば、もっとこまめに行くことを考えたらどうか
- ・ 市民の声を拾うことが、この会の本来の姿だと思う
- ・ 各地区で開催する場合、前もって質問を聞いておいたらどうか
- ・ 全員がなんらかの形で、発言していくように持っていこう
- ・ 地区に出ていく場合、課題を持って出て行った方がよい
- ・ あまり議員の数が少ないと、質問や意見の集中砲火を浴びる恐れがある
- ・ 少人数で出ていく場合は、事前に勉強会をしたらどうだろうか
- ・ 議員の考えが、まちまちだと困る場面もあるので、意見を統一しておいたらどうか
- ・ 個人の意見は、持っていくべきだと思う
- ・ 議員個別の意見を聞かれたら、はっきり言うべきだと思う（市民はそれを求めていると思う）
- ・ 意見書や決議したようなことは、統一した意見をその場の代表者が発言し、そのほかは議員個人の考えで発言していく
- ・ 参加者が少なかったり、意見が白熱することも考えられる。覚悟が必要

このような意見がでましたので、今後、議会報告会・議場開放プロジェクトチームで地区へ出ていくための素案を作成します。

フロアーとの意見交換（要点筆記）

本日の参加者は、前回の倍くらいでその点はほめられるが、議会報告会について、以前、話を聞いた時には、3人くらいで公民館を回ると聞き期待をしていたが、何故、年1回の報告会になったのか？

前は、今年の2月にしたが、それから市議会議員の改選があり、議員が交代し初めだったので議員の紹介や議会での役割を紹介するため全員となった。今後、きめ細かにやるようにプロジェクトチームで、やり方を検討する。

市長が、就任1年半となるが、どこがどう変わったのか

市長が変わっても、急速に変わってはいない（そう変わるものではない）
207号の消波ブロックの整備を見ても、太良町側は整備されていて鹿島側はまだ未整備である。鹿島の弱点が見えてきたと思う。近隣と連携しながら、鹿島市を良くしていく。

4月から新人が入ったがどう変わってきたか

議会が明るくなった。ランチマップをみて市内各店で実際食事をするなど、鹿島のもっているものを、現場にでかけて実際を見てくる現場主義なので行動的になった。

議会の中が生き生きしてきた。個人的な議員活動とともに、みんなが議員として、一緒にやろうという気が出ている。市長を市民の対場に立たせるように活動していく。

市民は、新しい市長に期待をしていた。市長が変わって鹿島がどう変わったか気にしている。武雄市が、どんどん新しいことを打ち出しているのに、遅れているのではないか。

考えているばかりでは駄目である。形に表せるようにさっそく行動をしてほしい。市民は、それを期待している。

地道な活動ですが、イノシシ駆除の方策を九州大学と共同で研究したり、歴史文化を掘り起こし、観光に結び付ける等取り組んでいる

今回の意見は、一般質問なり委員会活動で取り上げ、市長にぶつけていく。

現在、常任委員会が2つだが、建設と産業は分けた方がよくないか。本議会で自分の席から、答弁席にいちいち出ていくのは時間がもったいない

議員が16人に減ってきたので、2つの常任委員会となっている。

他所で聞いたことだが、自席から答弁台まで少し時間がある事で、発言をまとめながら移動している事もある。あながち無駄な時間とばかりもいえない。

景気が良くならないのは何故か？世の中が変化し第1次産業が駄目になったからだと思う。今は、耐えるとき、仕方がない、みんながんばっている。鹿島だけが駄目なわけではない。どのようにして鹿島を活性化させるか！自分は、一次産業の代わりに観光だと思う。

素晴らしい質問とヒントをもらった。今から鹿島は何でメシを食べていくか、予算的には、それぞれの分野へ力を入れていることは、見て取れる。

50年ぶりに鹿島に帰ってきたが、病院やスーパーなど多くあり、鹿島はよいと思う。

道の駅は、多額の費用を投じて改造したが、改造前と後では客は増えているか。検証すべきと思う。たらふく館には、専門家が入っているいろいろな企画をしているが、道の駅はどうか。どこが運営しているのか。

鹿島には、道の駅以外にも多くの直売店が各地区にある。

経営は、七浦地区振興会が責任をもって運営している。決算書もある。

改造後客は増えてきている。

人口は減っているのに、ごみは減っていない。それぞれ個人や小さなグループで頑張っているが、どこが機能すればよいのでしょうか

鹿島の分別は、他市町に誇れるもの。生ごみのたい肥化やマイバック運動も取り組んでいる。生活が豊かになっている事も一因と考えられる
生ごみの資源化もなかなか進まない

世の中が、経費を減らしていこうという時代に、政務調査費を検討されているが、自分達だけで決められると中身が見えなくなるので、プロジェクトの中に市民目線の意見を取り入れる考えはあるか

19年度から検討してきて、いろいろな考え方があるが、今、議会のプロジェクトチームで検討している。プロジェクトチームに市民の意見を入れる作業はしていない。パブリックコメントやアンケートの作業は、必要となるだろう。

政務調査費は、最終的に「報酬等審議会」という市民が構成する審議会で決定することになるので、そこで市民の考えが示されることになる。

鹿島市議会基本条例が制定されてから、議員提案の条例はあるか

基本条例は議員提案だが、その後、議員提案の条例は、まだない

議員が、政策立案できる能力を持てるよう、資質の向上を図っている

議会報告会記録写真

H23.11.11.開催 エイブルホール



エイブル玄関前看板



舞台全景



市長挨拶



会場（左後方から）



会場（右後方から）



受付（入口左側）



受付(入口右側)



舞台左半分（総務建設環境委員会）



舞台右半分（文教厚生環境委員会）



記念講演会 講師



舞台中央（正副議長）



報告会終了後（全議員）